



第2回

気候変動を考慮した愛媛県沿岸の 海岸保全施設の計画外力検討専門部会

－第1回専門部会の主要意見と対応－

日時： 令和5年9月13日 13:30～15:30

場所： 愛媛県庁第1別館5階第12会議室

第1回専門部会の意見と対応

主な意見	対応案	参照
<p>現計画の外力はどのように決まっているのか。他の自治体では複数の方法を用いる場合もあるがどのようにするか。</p>	<p><高潮> 設計高潮位は既往最高潮位によって定められている。計算コストや時間の兼ね合いから、既往の手法に倣い、A-1の手法(パラメトリック台風モデル)を設定する方針とする。</p> <p><波浪> 設計波高は確率風速や多数のサンプルによる確率評価によって設定されている。近年の設計波の見直しの主流であるB-1の手法(多数のサンプルによる確率評価)を設定する方針とする。</p>	<p>資料2-2</p>
<p>既往論文に従い、推定式を作成し、擾乱を選ぶのか。</p> <p>[出典] 五十嵐ら:大規模アンサンブル気候予測データベース(d4PDF)を用いた高潮・波浪に対する気候変動の影響評価の効率化手法の検討, 土木学会論文集B2(海岸工学), Vol.78, No.2, I_973-I_978, 2022.</p>	<p><高潮> 高潮の擾乱は既往最高潮位が発生した台風を基本とする。高潮浸水想定で設定されたコースも参考にする。</p> <p><波浪> 愛媛県沿岸では、波浪観測地点が多くはないため、波浪の推定式の構築・検証が難しい。したがって、経験的台風モデルによる予備検討を実施し、風速から擾乱選定することを基本とする。</p>	<p>資料2-2</p>
<p>擾乱を選ぶ際のGCM (General Circulation Model) の各SST(海水温)パターンは同じ数を選ぶのか。</p>	<p><波浪> 将来気候において6種類あるSST(海水温)パターンは偏りがないように同程度の数を選ぶ予定である。</p>	<p>—</p> <p>※第3回専門部会で対応</p>
<p>これまでの既往最大波高が発生したイベントの種類は、台風と低気圧のどちらであるか。</p>	<p><波浪> NOWPHAS(全国港湾海洋波浪情報網)による愛媛県周辺の観測値を整理すると、全て台風であった。</p>	<p>次ページ参照</p>

第1回専門部会の意見と対応

波浪の観測地点



【愛媛県周辺の既往最大波高】

地点	有義波高 [m]	有義波周期 [s]	最大波高 [m]	最大周期 [s]	起時	要因
神戸	4.72	6.2	—	—	2018/09/04 14:20	T1821
小松島	5.71	10.4	—	—	2015/07/16 23:00	T1511
室津	13.55	15.8	—	—	2004/10/20 14:00	T0423
高知	12.49	16.4	—	—	2004/10/20 14:00	T0423
上川口	9.53	14.6	—	—	2011/07/19 02:40	T1106
苅田	3.78	5.9	—	—	2015/08/25 07:00	T1515
細島	11.88	13.5	—	—	2007/08/02 15:20	T0705
和歌山南西沖	11.15	13.3	14.48	12.8	2015/07/16 23:20	T1511
徳島海陽沖	14.46	14.6	19.60	14.8	2018/09/04 11:00	T1821
高知室戸岬沖	1.90	15.0	20.72	13.7	2018/09/30 17:00	T1824
高知西部沖	11.42	13.1	16.67	13.6	2011/07/19 00:40	T1106
宮崎日向沖	11.35	15.0	16.30	15.1	2020/09/06 18:40	T2010